

1. アートによる環境啓発フリーペーパーの発行「生命（いのち）あるものは美しい The Beauty of Life」

市長

はじめに、環境啓発フリーペーパーの発行についてです。

横須賀市では令和2年9月に「海洋都市横須賀 海洋プラスチックごみ対策アクション宣言」を表明したところです。それ以降、この宣言の賛同事業者の募集や海岸清掃の取り組み、JAMSTEC と連携した科学的な研究協力など、さまざまな取り組みを進めてきました。ただ、こうした環境問題については、一人一人が自分事として考え、行動していかなければ解決できないと考えており、私としては人の心を動かすためにはアートの力を使うことが必要なのではないかと、常々思っていたところです。

そのような中、アートの力で環境問題を訴えていらっしゃる、井上文太先生の取り組みを知り、先生とお会いをして話をしたところ意気投合し、市の取り組みについてご協力をいただくことになりました。ここで少し、井上先生についてご紹介をさせていただければと思います。

井上先生は京都市の妙光寺の障壁画や、三谷幸喜氏脚本のNHKの連続人形活劇、「新・三銃士」のキャラクターデザインを手がけるなどさまざまなシーンでご活躍をされています。また、世界最大規模の海洋保護団体「オセアナ」でアートを通じて環境啓発をされるなどグローバルに活動されている方があります。

先生には今回の取り組みに先駆けて浦賀奉行所の300周年記念事業のメインビジュアルの制作や、子ども向けの小冊子への挿絵の提供などもご協力をいただいています。

このフリーペーパーに掲載している絵はすべて井上文太先生の作品です。先生の描かれている生命あるものたちの力強さ、可愛らしさに私自身たくさん力をもらっているところです。このフリーペーパーには先生の描かれた生命あるものたちの美しさに触れてもらうことで生命を守るにはどうしたらいいかを考えてもらいたい、そして行動してもらいたいという熱い想いを込めています。ぜひ多くの市民の皆さんの手にとっていただき何かを感じ取っていただければ嬉しいと思っております。

今日より、順次、市役所や行政センターなどで配架予定です。

この後井上先生からもこちらのアートや今回の取り組みに込めた想いをお話いただければと思います。なお、このフリーペーパーは紙ではなく石灰岩を主原料とした新素材「LIMEX」でつくられています。「LIMEX」の詳細につきましては、

この後説明をさせていただきます。私からは以上です。

井上 文太さん

画家の井上文太です。このたびは地球環境のことで市長をはじめ、市役所の皆さんにこのような場を設けていただいたことに感謝します。

僕は絵描きなので、どのようなことをしゃべれば良いか今ひとつ分からないのですが、ただ、いままで地域や自治体、政治家やビジネスの方などから、環境問題について、アートの寄付を通じた取り組みのお話はいろいろいただいていたと思います。

今回初めて、横須賀市から本当にアートで環境を伝えたいんだという話をいただき、それが僕にとってはすごくグローバルで新しくてやりがいがあることだなと思い、参加させていただきました。

<質疑応答>

記者

このフリーペーパーについて、今後の期待感やこう広まってほしいなというような思いがあればお聞

かせください。

## 市長

このフリーペーパーを多くの市民の皆さんの手に取っていただいて、環境問題という大きなテーマに触れていただきたいと思います。

私は理屈ではなく、人類は地球によって生かされていると思っています。アートの力で直接感性に訴えることによって、生かされているという事実を知る時期が来たのではないかと常々思っております。そうしたなかで井上先生にお会いして衝撃を受けました。先生の作品に触れる人が増えていくことによって、地球環境についてさまざまな問題が提起できるのではないかと、ジャッジできるのではないかと感じているところです。私は、法律など理屈ではなく、とにかく感じてもらうということの方が先なのではないかと考えていて、とりわけ子どもたちには、大人の理屈よりも、さまざまな躍動感をもつ生きものが描かれる井上先生の絵の力によって「生きている、生かされているということ」を理解してもらえようになると、すごく感じております。今後このような形で意識の啓発、環境問題に対しての啓発はしていきたいと思っています。

## 記者

こちらの絵は、今回のために制作をされたものですか。

## 井上文太 氏

ここ2年くらいで描いたものです。

常々、僕はもう10年も前から、オセアナや環境問題について参加してきました。いろいろな取組みを目にするなかで、たとえばプラスチックを食べて死んでいるウミガメや、これだけごみがありますという伝え方もいいと思うのですが、「これだけひどいのでみんなで協力しましょう。」といった方向性しかないのかなということはずっと思っていました。

僕らが楽しいのも美しいって思うものも、その生命が生きているからだと思っていて、さまざまなアプローチの方法はあると思いますが、僕は絵が、その生命が元気に生きていることが伝わるように、自分がこうだからこうしようということではなく、それぞれが自発的に活動していくようなきっかけとなるようになればいいと思っています。

今まで伝えてきたことが、地球を美しくしようというところにつながっていったのは、画家としては嬉しいなと感じています。

## 記者

その画材としてはアクリルですか。

## 井上文太 氏

いや、日本画画材やアクリル、水彩もあります。そこに関しては、横須賀だけではなく世界の市にも発信したいと思っているので、こだわってはいません。

## 記者

今回、表紙に創刊号と書いてありますが、今後どのような展開をされて、井上さんが絵を手がけていくものなのか、それともいろいろなアーティストが発信をしていくのかなど、その辺を教えてください。

## 市長

当然ながら、できれば第2号、第3号と発信をしていきたいと思っています。

このフリーペーパーという題材ですが、井上先生のお力をいただいてさまざまな場面で描いていただいて啓発できればと考えています。

そのうちの、まず第1弾というご理解をいただければと思います。

井上先生は、さまざまところで問題提起をされたり、神社に絵を描いて奉納するなど、実は日本全国で活躍をしていらっしゃる方です。特に龍の絵がお好きで、地球環境のため龍が立ち上がっているという思いを持っていらっしゃると思います。私も龍にエネルギーを感じるところが似ているので、先生の龍のエネルギーをいただきながら成長していきたいと思います。また、アートの力を借りて少しでも環境をよくしていけたらということに、同志を、ある意味では得たと思っています。一緒に世界に向けてさまざまな発信ができればと思います。

## 記者

生年月日とお住まいなど教えてください。

## 井上文太 氏

生年月日は非公開にしております。所在地は千葉の館山です。今後、横須賀にもアトリエを用意しようと考えています。

アートというと、アーティストとビジネスはまったく関係ないと縦割りになってしまおうと思います。環境問題もそうですが、この先、若い人や子どもたちに必要なのはクリエイションだと思っています。

そのため、今回のこのテーマはインスピレーション、パッションと言いますか、情熱をそれぞれが持ってほしいというところで提案しています。

そういう意味も含め、今回こうした方がいいよ、アーティストだからこうだよ、ということではなく、創造力をもっと豊かにしてほしいと思っています。商品でも同じものをつくっても売れないですから、やっぱりみんなそれぞれ、どの分野もアートに限らず個性がないといけない時代になってきているということが伝えられたらいいなと思っています。

## <フォトセッション>

## 2. ゼロカーボンシティの実現に向けて～全国初！株式会社 TBM と連携したマテリアルリサイクルの取り組みに挑戦！～

### 市長

次に、本日 2 件目の案件になります。株式会社 TBMさんと連携し、ゼロカーボンシティの実現に向けたマテリアルリサイクルに関する全国初の取り組みについてご説明をさせていただきます。

本日はその TBM社の山崎敦義代表取締役 CEOにご同席をいただいております。

さて、横須賀市は令和 3 年 1 月にゼロカーボンシティ宣言を行い、同年 9 月には「地球を守れ横須賀ゼロカーボン推進条例」の制定を行ったところであります。

ゼロカーボンシティ実現に向けては先ほどの海洋プラスチックごみ問題と同様、当然、市役所だけではなく市民、事業者の方々、それぞれが自分事として行動することが何より大切であると思っております。

今回、その実現に向けた大きな一歩として TBM社と連携し、全国初のマテリアルリサイクルの取り組みに挑戦していくことといたしました。

TBM社の山崎社長は世界的な環境問題の解決に対して常識にとらわれず、資源循環における世界のトッププレーヤーになることを目指し、挑戦し続けている非情に熱い思いをお持ちの方です。

私としてもゼロカーボンを目指す中で、この上ない大変心強いパートナーと巡り会うことができたと思っています。この秋には神明町に TBM社の世界初となるプラントが稼働する予定になっております。このプラントは、TBM社が開発された、石灰石を主原料とする紙やプラスチックの新たな代替製品である LIMEX 製品と既存のプラスチック製品とを自動で選別し、それぞれの廃棄物から新たな製品への再生を可能とする施設になります。

今回、横須賀市が挑戦する取り組みはこの施設の稼働と今週の 4 月 1 日に施行される「プラ新法」を踏まえて、全国で初めて、LIMEX 製品とそのほかのプラスチック廃棄物の一括収集を実施しようとするものです。

世界的な脱炭素の動きのなかで、プラスチック廃棄物を燃やさずに循環、再利用していくという流れは、今後さらに加速していくと思います。これらの流れのなかで、今回の取り組みは、プラスチック廃棄物の一括収集とその再製品化ということで、脱炭素だけではなく海洋プラスチックごみ削減につながる世界に向けた横須賀発の新たな挑戦であります。ぜひ市民の皆さんにはご理解とご協力をいただきますよう、お願いを申し上げます。

それでは引き続き、資料に沿って具体的な取り組みの概要を説明させていただきます。

まず 1、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」の施行を踏まえた連携です。

先ほど申し上げたとおり、令和 4 年 4 月 1 日に施行される「プラ新法」に全国に先駆けて対応するために再商品化計画の策定をはじめ、容器包装プラスチック、製品プラスチック、LIMEX 製品の一括収集および資源化、再商品化の実証実験を進めてまいります。取り組みの概念図は図 1 のようになります。

続いて 2 ページをご覧ください。

図 2 には現在からの実証実験の実施、一括収集までの流れを示しています。

令和 4 年の秋の TBM社のプラントの稼働とともに、まずは一部地域のモデル地区にて実証実験を実施する予定です。その結果を踏まえて令和 5 年度中には、市内全域での一括収集の実施を目指していきたいと考えています。市民の皆さんには令和 2 年 1 月の横須賀ごみ処理施設エコミルが稼働した際にプラスチック製廃棄物の分別の変更をお願いしたばかりです。しかし、先ほど申し上げましたとおり地球規模の環境問題、ゼロカーボンの実現に向けて横須賀市としてどの自治体よりも先駆的に取り組んでいきたいと考えています。実証実験ではまた新たなごみの分別の変更をお願いすることとなりますが、何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

次に2、LIMEX 製品の活用の検討です。TBM社が開発した環境負荷の少ないLIMEX 製品について市役所をはじめ市内での活用の検討をはじめ、回収、収集の仕組みについてTBM社と一緒に検討を進めてまいります。なお、当面の回収については回収ボックスを市役所の本庁舎、行政センターに設置し行う予定です。

続いて3ページをご覧ください。

3、資源循環教育の推進についてです。若い世代に対し、ゼロカーボンに対する考えを早いうちから自分事として捉える意識を醸成するために、TBM社の運営プラントの見学や小中学校への出前授業などに加え、今後進めていくマテリアルリサイクルの取り組みやLIMEX 製品の啓発についてこちらも、TBM社と連携して進めていきたいと考えています。

最後になりますが4、想定される取り組みの効果についてです。今回の取り組みを進めることで燃せるごみの減量を果たすことができ、結果としてCO<sub>2</sub>排出量の削減につながると考えています。その量としては年間約5,400トンの削減効果を見込んでいます。また海洋プラごみに関してもごみそのものを減らすことに加え、LIMEX 製品の活用および廃棄物の再製品化の促進によりプラスチック製品を市場に出すことなく最上流のところから削減することができ、結果としてプラスチックごみの総量を削減できると考えております。私の説明は以上です。

## 山崎代表取締役 CEO

株式会社TBMの山崎でございます。まずは本日このような場にお招きいただき誠にありがとうございます。

上地市長からお話がありましたが、今回の連携は「プラ新法」の対応としても全国初の挑戦であり、横須賀市そしてTBMにとっても非情に重要な意味を持つ連携と認識し覚悟して挑んでまいります。

「プラ新法」においてプラスチック使用製品に該当するLIMEX 製品は現在8,000社を越える企業や団体で採用されるようになりました。LIMEX 製品は従来のプラスチック製品と比べてプラスチックの使用量削減、ライフサイクル全体でCO<sub>2</sub>を削減できることが可能です。またLIMEXの主原料の石灰石は国内でも自給自足可能な資源です。最近価格が高騰している原油や樹脂と比較して石灰石は資源の枯渇リスクが少なく、世界で豊富に存在しているため価格の安定性に優れています。これまでLIMEX 製品の過程にはさまざまな困難もありましたが、多くの方々のご支援のお陰でその困難を乗り越えてきました。

本日の発表のとおり横須賀市のお力添えをいただき、そのLIMEX 製品は全国のどの自治体よりも先駆けてこの横須賀で分別が進んでまいります。そして、今年の秋に竣工予定の国内最大級のプラスチックのマテリアルリサイクルプラントで資源として循環していきます。

この横須賀の地からLIMEX 製品の回収が進み、そしてほかのプラスチック製品と一括収集する分別カテゴリーが生まれることは、全国自治体の初のモデルとなるだけでなく日本から世界に広がって行く資源循環のモデルとなります。皆さんのなかには分ければ資源、混ぜればごみという言葉聞いたことがある方もおられると思います。

広く普及しているプラスチックやほかの素材も過去を遡ると新素材であった時代が確実にありました。そして新しい素材を使用した製品は、初め、異物として扱われてきました。ただそういった素材や製品が普及する過程のなかで、新しい挑戦にはイノベーションを応援したり未来のために、今の常識を変える人たちの力で環境性に優れていたりこれからの時代に必要とされる素材は広まり新しい歴史がつけられてきました。

もちろんのこと横須賀市の皆さまはこれまでもそのリサイクルに取り組まれておりますが、横須賀市においてもプラスチックの新しい資源循環元年になる年になるかと思っております。私は今回の横須賀市様との連携を通じて横須賀市の事業者の皆さま、そして市民の皆さまと共にサーキュラー・エコノミーといえは横須賀市、脱炭素に資する資源循環を推進する自治体といえは横須賀市、そう横須賀市の1人でも多くの方々を感じていただけるようなモデルづくりに精いっぱい貢献し

ていきたいと思っております。さらに国内では多くのプラスチックが焼却されていますが、プラスチックや LIMEX 製品を燃やさずに横須賀市民の方々の協力により分別することでもたらされる、環境に対してポジティブな効果を国内はもとより世界の方々へお伝えしていきたいと思っております。本日は貴重な機会を誠にありがとうございました。

### <質疑応答>

#### 記者

TBMとの連携に踏み切った理由をお聞かせください。

#### 市長

先ほどの地球を守るという意味でお話をしたように、どのように資源循環をやっていくのかということは、当然我々が考えなければいけないことです。次の世代に何を残すかというテーマでやってきている人間としては、必然性の高いところで山崎社長にお会いしたと考えています。

やはり生命を張って次の世代のために何かをしたり、あるいは地球のために何かをするのが使命だと思われている方で、少しでも脱炭素、地球のために、あるいは次の世代のために何か残したいと思い、ご一緒させていただくことになりました。

#### 記者

導入に当たり、ハードルはありましたか。

#### 市長

既存の価値観といいますか、常識を覆すというだけであって、私にとってはハードルとも何とも思いません。ただ、周囲の皆さんのご理解だとか社会情勢がどうなっているのかということに関しては、これからさまざまな周知、啓発を行いご理解をいただかなければいけないと思っています。

#### 記者

新素材というところで、新しいものという意識が市民の皆さんに出てくると思います。そのことについて今後の啓発活動というのは何か具体的に考えられていますか。

#### 資源循環部長

はい、まだ具体的にいつから市民に啓発していくか決まっていますが、当然こういうものができるということで周知の方は進めていきたいと考えております。

#### 記者

何かその手段というのはもうありますか。

#### 経営企画部長

具体的な啓発ということでまず、子どもたちへの啓発ということも始めていきたいと思っております。学校の授業として行ったり、市民の方へのごみトークなども実施していきたいと思っております。また、実際にすでにこういったフリーペーパーも作っておりますので、こういうものを通してこの LIMEX については啓発していきたいと思っております。

#### 記者

新しい取り組みに向けた期待感や今後の展望などがありましたらお聞かせください。

## 市長

横須賀の首長として考えるのは、安全保障環境が大変厳しくなっていく、変化していく中で、資源の取り合いというのが必ず行われていくだろうと思っています。これは、地球をどのように利用していくかという問題であり、そのなかで大きな視点から見れば、石から紙やプラスチックの代替製品ができるなんてことは誰も発想がなかったと思います。この画期的な考え方によって少しでも脱炭素、それから地球に優しいとすることができるというのはある意味ではこれからの地球を考える、あるいは社会を考えていく上で本当にエポックメイキングなことだと思っています。その先駆者である山崎さんと知り合えたので、私たちは一緒に連携をしながら、前向きに進み、少しでも地球のことを考える一因をもたらすことができれば、その役に立てればと考えています。

## 記者

神明町の方にリサイクルプラントを新設されると聞いています。立地としてその場所を選んだ理由があれば教えてください。また、こちらは新素材が使われているということですが、実際の既成の紙と比較して価格にどのくらい違いがあるか教えてください。

## 山崎代表取締役 CEO

神奈川県とアップサイクルコンソーシアムというのを立ち上げさせていただいて、その活動の中で、横須賀市のご紹介を受けました。そこで市長を先頭に、ゼロカーボンシティに向けて、地球に向けて取り組まれている姿勢、その他、さまざまな面で横須賀市とこのような取り組みを日本初でチャレンジさせていただくということは、本当に意義のある取り組みだと思い、我々も決断して横須賀市でお世話になろうという決定をさせていただきました。

横須賀で日本、世界初となるこの取り組みをチャレンジさせていただくことは本当に光栄だと思っています。

価格につきましては、いろいろな紙がありますので、どういった紙と比べるかということはありませんが、通常の紙と比べると高いところはあります。ただ、プラスチックの製品と比べるとストレスがないぐらいの価格になってきていると思います。

LINEX というのは、これからどんどんエコノミーとエコロジーを両立させるべく、成長させていきますし、再生材料を活用した LIMEX の製品化など、いろいろなことやっていながら環境負荷の軽減化を推し進めていこうと思っています。

## 記者

日本のどういった場所で、石灰石を自給自足できるのか教えてください。

## 山崎代表取締役 CEO

日本の各地に石灰石というのは埋蔵されています。

その中で、宮城県に2つ自社の工場を保有し製造させていただいており、福島県の方から取り寄せたものを採掘したのを使わせていただいています。もちろん、一部海外のものも使っており、世界中に豊富にあります。

今後、ご一緒させていただく取り組みは、市長の方からお話していただいたように、この地球規模でのチャレンジのゼロを1にするところだと思っています。

その中で今まで自分たちの国で資源が乏しくて生産ができていなかった国々や産業が進む国々でも石灰石は自給自足できるので、そういった国々で LIMEX を生産していただき、リサイクルをしていくということを世界中でどんどん展開していくという、その事例づくりを、この横須賀でまずスタートさせていきたいというのが、今後 10 年後 30 年後という世界で起こりえる人口増加、

資源枯渇というところに大きく貢献できると思っています。

**記者**

山を切り崩しているわけではないということですね。

**山崎代表取締役 CEO**

採掘については元々セメントの原材料を入手するインフラ（環境マネジメントシステム認証の取得等）を活用しています。

**記者**

全国初となる部分はどこの部分になりますか。

**山崎代表取締役 CEO**

2点あります。1点目は、やはり通常のプラスチック製品と LIMEX が一緒に混ざって、それを全自動でいわゆる分別してマテリアルリサイクルしていくというプラント自体が世界初のチャレンジだということ。あとは「プラ新法」の枠組みで全国初の自治体の取り組みとしてプラスチック製品と LIMEX 製品を一緒に回収して分別してマテリアルリサイクルしていくという取り組みが初という意味でご理解いただければと思います。

**記者**

マテリアルリサイクルといったときに LIMEX 製品やプラスチック製品を一緒に一括収集して、それで自動選別というのは、その LIMEX は LIMEX、プラスチックはプラスチックで自動で選別されて、その後再商品化されるときも LIMEX はまた LIMEX の製品に再商品化されるということでしょうか。

**山崎代表取締役 CEO**

LIMEX 製品としてリサイクルされるケースと LIMEX のコンパウンド、いわゆる原材料を混ぜてプラスチックの再生材料とあわせて製品化するなど、いろいろなケースが考えられるかと思っています。

アップサイクルをしていくような製品開発を地元企業など、いろいろな方々と連携していきたいと思っています。その中では LIMEX 製品としてマテリアルリサイクルする場合もあるし、プラスチックの再生材料の中に混ぜて製品化していくということもあるかと思っています。

**記者**

先程、お話の中で、プラスチックの分別を最近お願いしたばかりだけでも一括となるということでしたが、いつからこの容器包装プラスチックと製品プラスチックの分別という形なのでしょう。

**資源循環部長**

令和2年1月からです。

**記者**

その時は、どういう形で分別をお願いしたのですか。

**資源循環部長**

その時は、不燃ごみとして収集していた製品プラスチックを、燃せるごみとして収集するとさせていただきました。容器包装プラスチックは以前と変わっておりません。



**記者**

プラスチック資源循環法では、容器包装プラスチックをその他の製品プラスチックと一括回収するときに、容リ協のルートと、事業者と直接、提携して回収するルートの2つが今後出てくると思いますが、今回はその後者に当たると考えてよろしいでしょうか。

**資源循環部長**

はい、そのとおりでございます。

(フォトセッション)

### 3. 新型コロナウイルスワクチン接種率と感染者数について

#### 市長

続いて3件目となりますが、横須賀市のワクチンの接種率と新型コロナウイルスの感染者数の調査結果について説明いたします。

オミクロン株が蔓延してきた今年の初めから現在まで、横須賀市の新型コロナウイルスの感染者数とワクチン3回目の接種率について3カ月にわたり調査を続けてきました。調査の結果この2つに明らかな相関が判明しましたのでご説明をさせていただきます。

まず、資料1ページ目をご覧ください。

図の棒グラフは、今年1月1日から1週間ごとの感染者数です。当初より急激な上昇を見せ2月のはじめにピークを迎え現在は減少傾向にあります。

また、図の青い折れ線グラフは1週間ごとのワクチンの接種率です。ワクチンの効果が出るには2週間程度かかるため、接種後2週間のワクチン接種率を赤い折れ線グラフで示しています。この図から赤い折れ線グラフの立ち上がりに合わせて感染者数が低下傾向にあることが分かります。

続いて、資料2ページをご覧ください。

この資料は先ほどのグラフから60歳以上の件数を抽出したものです。先ほどの傾向は高齢者より顕著となっているところです。赤い折れ線グラフをご覧ください。2月上旬ではワクチン接種率は3.74パーセントでしたが3月下旬には80.28パーセントまで増加いたしました。この上昇に合わせるかのように新規感染者数は433人から100人と4分の1程度にまで減少しています。

参考として比較用に59歳以下のグラフを資料3ページ目に添付しておりますが、高齢者ほど接種率の上昇はないため、市域感染者数の減少も見られない結果となっております。感染者数の減少はワクチン接種以外にも市民の皆さんの感染対策の徹底などにより効果が出てきていると思いますが、ただ、この2つの図を比較すると明らかにワクチン接種が感染者数減少に大きく貢献していることが分かりました。

現在は、蔓延防止等重点措置が解除されているところではありますが、これからは新年度を迎え人の流れも多くなり感染の再拡大の恐れもあります。そのために接種率が低い59歳以下の方々もぜひ積極的なワクチン接種をお願いしたいと思います。現役世代の方は仕事や学校で平日の日中にワクチン接種を受けることが難しい方が多くいらっしゃるかと思います。市内の医療機関では平日の夜間や休日に接種を実施している医療機関もあります。さいか屋横須賀店でも平日夜間、休日に接種を受けられますのでお早めに接種の予約をお願いしたいと思います。また昨日リリースをしましたが12歳から17歳までの3回目の接種について明後日より接種券の送付を開始し、4月より準備の整った医療機関にて接種を開始する予定でもあります。こちらについても積極的な接種をお願いしたいと思います。私からは以上です。

#### <質疑応答>

#### 記者

このワクチンの接種率が上がれば上がるほど、減少傾向にあるということが分かったということだと思いますが、横須賀市としてコロナ収束への目途や今後、どのようなことを見込まれているか教えてください。

#### 保健所長

現在、高齢の方の患者数は確かに減ってきていますが、ただ、軽症ながら、患者数は一定数発生しています。ワクチンの効果でもう1つ大きいのは、いわゆる中等症以上の方が非常に減ったということが1番大きいと思われまます。患者さんの数はある程度はどうしてもワクチンを打って

もかかってしまう方いらっしゃいます。ですからある程度共存って言うんでしょうか、そういう部分でワクチンをしっかり打っていただいて重症化を予防し、軽症で済ませる。それで、日頃の感染予防をしっかりしていただくことをしばらく続けていくことが今後必要なことであると考えております。以上でございます。

#### 健康部長

本市では、医師会や病院会の先生方がこのコロナの状況に応じて、たとえば病床を増やすことや検査の幅を広げる、1日の検査数を増やすなど本当に柔軟に対応してくださっています。

正直、これからコロナがどういう形で収束していくのか、ステルス型なども出てきていますのでまた高止まりになっていくなど分かりませんが、その状況に合わせて、いろいろなところと手をつないで対応していきたいと思えます。

#### 記者

今後、このまま収束するであろうとか、もう1度、新しい波が来るであろうとなど、現段階では見据えられていないということでしょうか。

#### 保健所長

恐らく心配されているのは、ステルスオミクロンつまりBA2といったものが出てきて、また第7波のようになるのではないかとということかと思えます。それにつきましては、BA2いわゆるステルスオミクロンがどのように出てくるかということをも、きちんと把握しなくてはなりません。

本市としては、ステルスオミクロンであるかという検査ができるような態勢をもう敷いておりますので、そういう意味では迅速にそれらの状況を見ながら対応していくということになるかと思えます。

あわせてワクチン効果につきましては、非常に効果が高いとはいいながらも、時間が経つと効果が落ちてきてしまうことがありますので、次の波の発生状況等を見ながら、国の指示というのがあるかと思えますが、今回みたいに迅速にワクチンの接種を行ってきちんと重症者の方が出ないように防いでいくということで今後、市民の命を守るための対策を進めていきたいと思えます。

#### 記者

確かに、高齢者はワクチン接種が進み、感染者数もすごく減ったなど感じるのですが、若年層の接種が進まないのは多少、若年層の接種時期が遅かったからこれからということなのか、それとも、経過的に見て接種が何らかの理由で進んでいないのか、もし何らかの理由があるとしたらどこら辺に理由があると分析しているのか教えてください。

#### 所長

まず、ワクチンの接種につきましてはやはりワクチンに対する信頼というものが市民の方が抱く大事なことだと思えます。日本の場合、ワクチンに対して、比較的信頼が高く、高齢者の高い接種率が実現していると思えます。

もう1つは、先ほど市長からご説明がありましたように、受けやすい環境を市としては整えていることだと思えます。

さらに、その流行状況も要因の一つだと思えます。現在、中国はロックダウンしています。このロックダウンをしなくてはならない状況になってしまった理由として、市民の方々がゼロコロナだからワクチンを打つ必要はないだろうと安心してしまったため、接種率が低かったといえます。恐らく、若い方の場合、ある程度流行が収まると、急いで打たなくてもいいと思われる方も

いると思います。また、罹患しても若い方については、軽症ということもありますので、そういう意味では安心してしまってなかなか接種が進まないというところがあったと思うんですけども、ただやはり流行を抑えていくということと、あと若い方でもやはり基礎疾患がある方は重症化のリスクもありますので、しっかり広報・周知を進めていきたいと考えております。

<その他案件：質疑なし >